

HITACHI

DioVISTA

UpgradeToGL4 編

(株)日立パワーソリューションズ

■対象製品

DioVISTA

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■商標類

Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel、インテル、Pentium はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

■発行

2023年9月（初版）

■著作権

© Hitachi Power Solutions Co.,Ltd. 2023. All rights reserved.

株式会社日立パワーソリューションズの許可なく複製・改変などを行うことはできません。

変更内容

変更内容	変更日
初版	2023/9

はじめに

国土交通省が 2023 年 2 月に公表した「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第 4 版）」（以下、電子化ガイドライン）では、浸水想定区域図データの電子化方法が規定されています。また、「浸水想定区域図電子化用ツール[洪水]Ver.4.01」（以下、電子化用ツール）は、電子化ガイドラインで規定されているデータフォーマットでデータを作成・変換するための支援ツールです。

本マニュアルでは、電子化ガイドラインが規定するフォルダ構成やデータフォーマットに従ったファイル、フォルダの作成を支援するツール(以下、UpgradeToGL4)についての操作方法や操作手順を説明します。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章から構成されています。

第 1 章 UpgradeToGL4 の基本情報

UpgradeToGL4 の動作環境やインストール方法、構成について説明しています。

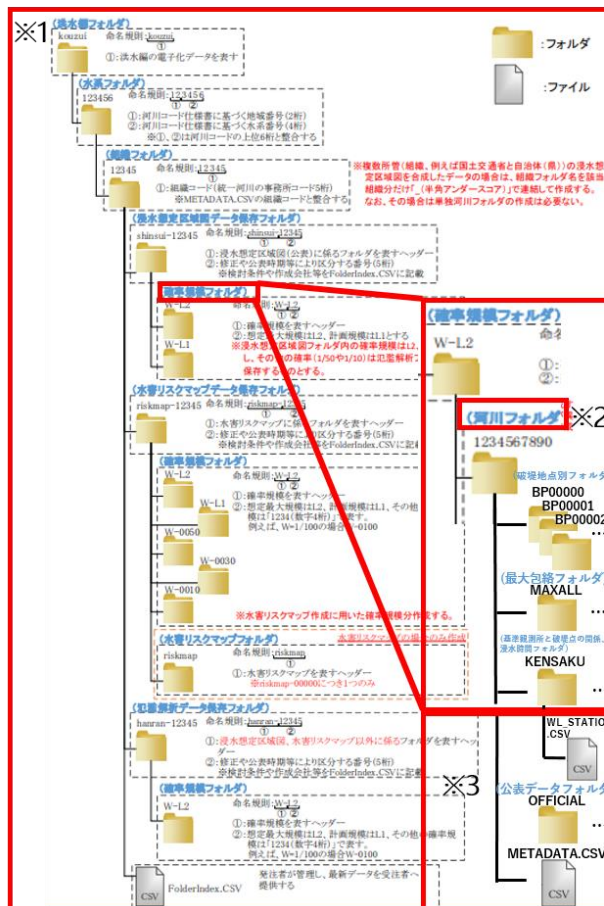
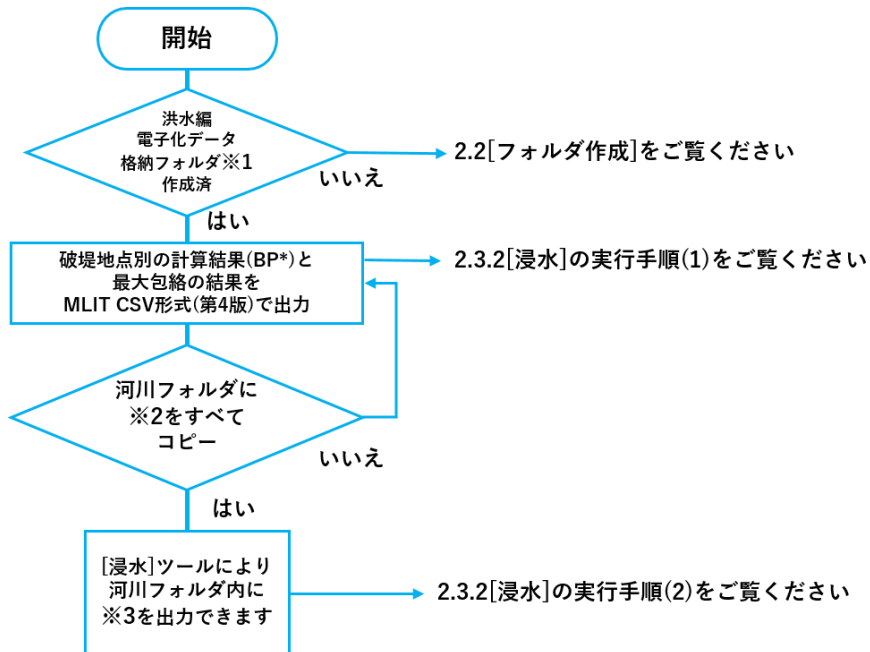
第 2 章 UpgradeToGL4 の使い方

UpgradeToGL4 各種ツールの概要や実行方法について説明しています。

実行フロー

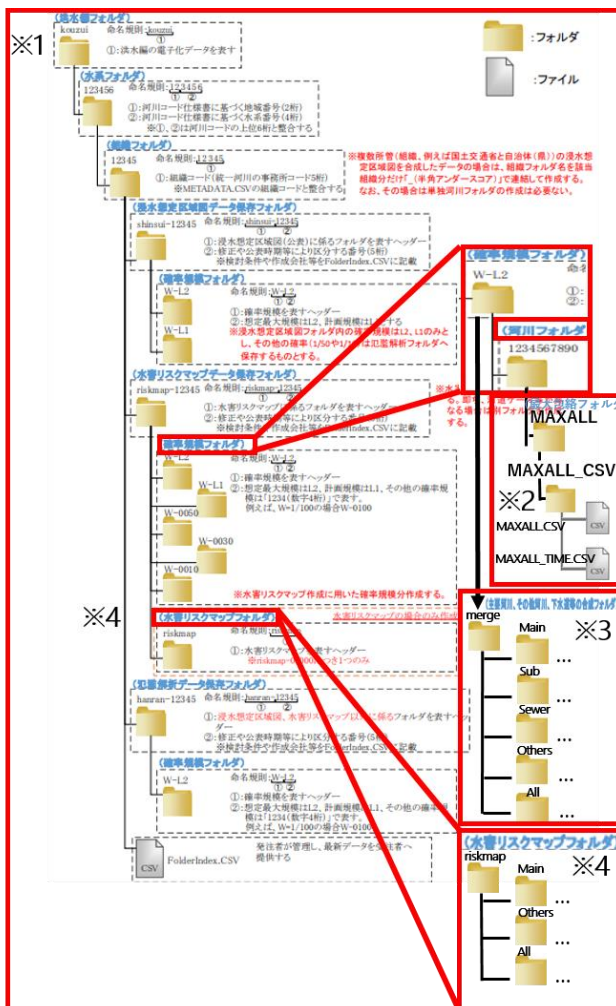
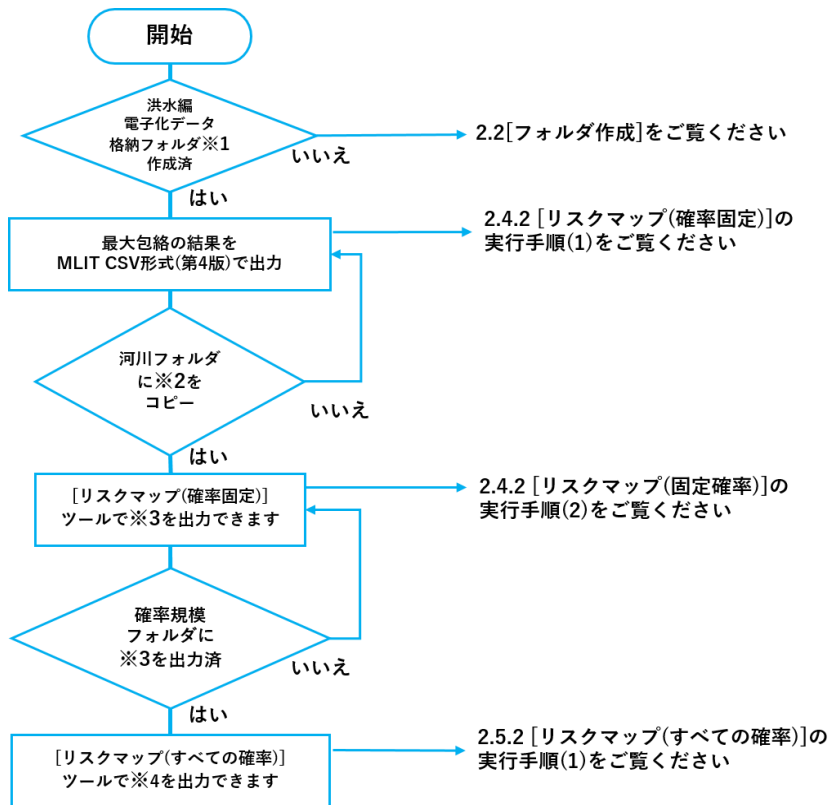
UpgradeToGL4 の各種ツールの実行フローを説明します。

(1)[浸水]



- ※2
- BP*/BREAK_POINT.CSV
 - BP*/BP_CSV/BP*_*.m.CSV
 - BP*/BP_CSV/BP*_max.CSV
 - MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV
 - MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV
 - KENSAKU/TIME_CSV/BP*_TIME.CSV
- ※3
- METADATA.CSV
 - OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV (riskmap, hanranの場合は除く)
 - OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV (riskmap, hanranの場合は除く)
 - KENSAKU/WL_STATION.CSV

(2)[リスクマップ(確率固定)]と[リスクマップ(すべての確率)]



- ※2
*/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV
*/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV
- ※3
merge/(Main|Sub|Sewer|Others|All)/[OFFICIAL]/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV
merge/(Main|Sub|Sewer|Others|All)/[OFFICIAL]/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV
- ※4
riskmap/(Main|Others|All)/OFFICIAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_ALL.CSV –
riskmap/(Main|Others|All)/OFFICIAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deep0.5m.CSV
riskmap/(Main|Others|All)/OFFICIAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deep0.30m.CSV

目次

DioVISTA	I
1. UpgradeToGL4 の基本情報	3
1.1 動作環境	4
1.1.1 動作環境	4
1.1.2 インストール	4
(1) UpgradeToGL4App-1.0.0.0.msix をダブルクリックします	4
(2) インストールをクリックします	4
1.2 UpgradeToGL4 の構成	5
1.2.1 構成	5
2. UpgradeToGL4 の使い方	6
2.1 留意事項	7
2.2 [フォルダ作成]	9
(1) フォルダ作成の概要	9
(2) 電子化ガイドラインとの比較図	10
2.3 [浸水]	11
2.3.1 [浸水]の概要	11
2.3.2 [浸水]の実行手順	12
(1) 事前準備:計算結果を MLIT CSV(第4版)形式でエクスポート	12
(2) [浸水]より必要情報を入力します	13
(3) 公表データフォルダを作成します	14
2.4 [リスクマップ(確率固定)]	15
2.4.1 [リスクマップ(確率固定)]の概要	15
2.4.2 [リスクマップ(確率固定)]の実行手順	16
(1) 事前準備:計算結果を MLIT CSV 形式(第4版)でエクスポート	16
(2) [リスクマップ(確率固定)]より必要情報を入力します	17
(3) 主要河川、その他河川、下水道等の合成フォルダを作成します	18
2.5 [リスクマップ(すべての確率)]	19
2.5.1 [リスクマップ(すべての確率)]の概要	19
2.5.2 [リスクマップ(すべての確率)]の実行手順	20
(1) [リスクマップ(すべての確率)]より必要情報を入力します	20
(2) 水害リスクマップを作成します	21
2.6 設定	22

2.6.1 [設定]の概要	22
(1) Personalization の設定例	23

1. UpgradeToGL4 の基本情報

1.1 動作環境

1.2 UpgradeToGL4 の構成

1.1 動作環境

1.1.1 動作環境

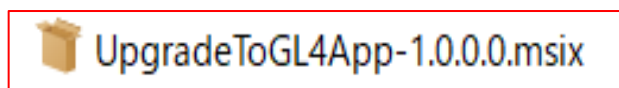
UpgradeToGL4 の動作環境について説明します。

項目	最小構成	推奨構成
CPU	1GHz 以上で 2 コア以上の 64bit 互換プロセッサ	Intel®Core™i-7 プロセッサ (第 8 世代以降)
メモリ	4GB	16GB
HDD	空き容量 100GB	2TB
画面解像度	1024×768 ドット 1677 万色 (24 ビット True Color)	1920×1080 ドット 1677 万色 (24 ビット True Color)
OS	Windows®10(日本語版)64bit または Windows®11(日本語版) ※Windows®10 の場合は Version1803 以降推奨	
マウス等	マウスまたはタッチパッド	マウス

1.1.2 インストール

UpgradeToGL4 のインストール方法について説明します。

(1) UpgradeToGL4App-1.0.0.0.msix をダブルクリックします



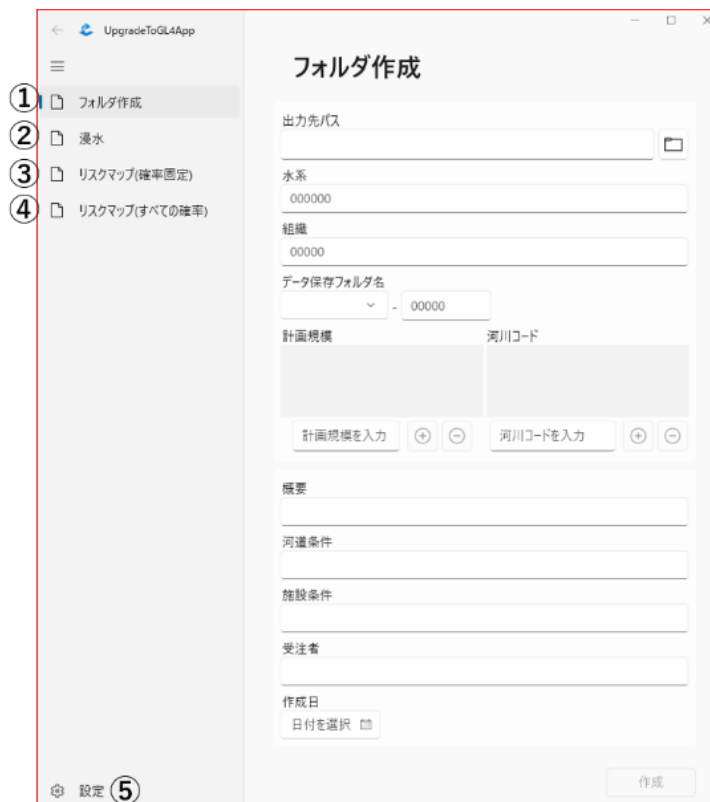
(2) インストールをクリックします



1.2 UpgradeToGL4 の構成

1.2.1 構成

UpgradeToGL4 の構成について説明します。



①	フォルダ作成	[洪水編フォルダ]に関するフォルダを作成できます。
②	浸水	KENSAKU/WL_STATION.CSV OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV※ OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV※ METADATA.CSV を作成します。※riskmap, hanran の場合は作成しません。
③	リスクマップ (確率固定)	merge/(All Main Others Sewer Sub)/[OFFICIAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV merge/(All Main Others Sewer Sub)/[OFFICIAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV を作成します。
④	リスクマップ (すべての確率)	riskmap/(All Main Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_ALL.CSV riskmap/(All Main Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deeper0.5m.CSV riskmap/(All Main Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deeper3.0m.CSV を作成します。
⑤	設定	表示設定やバージョン情報を表示します。

2. UpgradeToGL4 の使い方

2.1 留意事項

2.2 [フォルダ作成]

2.3 [浸水]

2.4 [リスクマップ(固定確率)]

2.5 [リスクマップ(すべての確率)]

2.6 設定

2.1 留意事項

電子化ガイドラインの一部に、あいまいな仕様、誤植と思われる箇所などがあります。これに関して、UpgradeToGL4、DioVISTA の仕様にあたっての判断を述べます。

判断：公表データフォルダ(OFFICAL)配下でない最大包絡フォルダ(MAXALL)には、常に MAXALL_TIME.CSV を出力します。

理由：電子化ガイドライン P35 には「想定最大規模」のみ出力する指示があります。(図:1)しかし、水害リスクマップデータ保存フォルダ(riskmap-*), 氾濫解析データ保存フォルダ(hanran-*)では、MAXALL_TIME.CSV を常に保存します。従って(図:1)の指示を誤植と判断します。



図:1

判断: FolderIndex.CSV と Folder_Index.CSV の名称について、前者を採用します。

理由：電子化ガイドライン P76 には全体管理用メタデータとして、Folder_Index.CSV のファイル名とする指示があります。(図:2)しかし、電子化ガイドラインのその他では、すべて、FolderIndex.CSV の名称となっています。従って(図:2)の指示を誤植と判断します。

項目		Folder_Index	全体管理用メタデータ
定義			業務単位で異なるデータの保管を可能とするため、全体管理用のインデックスデータとして作成する。基本的には発注者より付与される本データに追記していくこととする。
要求仕様	内容	(1) フォルダ名 (2) 保管されるデータ概要 (3) 河道の解析条件 (4) 施設の解析条件 (5) 受注者名 (6) データ作成日	当該データを格納するフォルダ名称 実施業務名など 河道の基本的条件・考え方を簡略記載 施設の基本的条件・考え方を簡略記載 受注業者名 データ作成年月日
	型単位	(1) フォルダ名は、[shinsui-12345]など業務で作成したデータ群の最上位フォルダ名 (2)保管されるデータの概要は、実施した業務名など簡潔に記載する (3)、(4)は、水害リスクマップなど整備段階の異なるデータ等を区分して保管する場合に、区分できる記載とする。	
例		フォルダ名,概要,河道条件,施設条件,受注者,作成日 shinsui-00001,平成 29 年度〇〇川浸水想定区域図作成業務,平成 29 年度末時点現況河道,平成 29 年度末時点現況施設,株式会社〇〇建設コンサルタント,20180325 shinsui-00002,平成 29 年度〇〇川浸水想定区域図作成業務 (shinsui-00001 の修正),平成 29 年度末時点現況河道,平成 29 年度末時点現況施設,株式会社〇〇建設コンサルタント,20180628 shinsui-00003,令和 2 年度〇〇川浸水想定区域図作成業務 (平成 29 年度の更新),令和 2 年度末時点現況河道,令和 2 年度末時点現況施設,〇〇エンジニアリング株式会社,20210228	
分類			全体管理用メタデータファイル
備考			このファイルは、「最上位フォルダ(ルート)」に格納する。 ファイル名「Folder_Index.CSV」とする。

図:2

判断:「主要河川」は複数存在する扱いとします。

理由:電子化ガイドライン P40(図:3)の「主要河川を合成したもの」という記述より、「主要河川」は複数存在する表現となっています。従って、「主要河川」は複数存在する扱いとします。

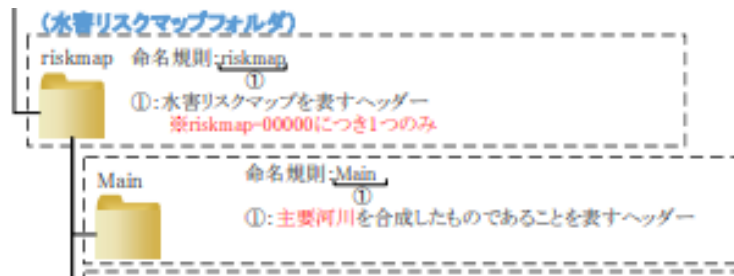


図:3

判断:水害リスクマップのメッシュサイズは「RISKMAP_ALL.CSV:浸水想定区域図のメッシュサイズ、RISKMAP_Deeper*m.CSV:氾濫解析のメッシュサイズ」とします。

理由:電子化ガイドライン P39(図:4)には、「メッシュサイズは、浸水深と同じく、原則として 5m メッシュとする」と記述があり、電子化ガイドライン P50(図:5)には「RISKMAP_ALL.CSV:浸水想定区域図のメッシュサイズ、RISKMAP_Deeper*m.CSV:氾濫解析のメッシュサイズ」と記述がありますが、後者を採用します。

- ① 水害リスクマップフォルダ (OFFICIAL\RISKMAP)
- 公表する水害リスクマップと整合の取れたデータを保存する。
保存する水害リスクマップデータは、全ての浸水が発生する範囲（水害リスクマップ作成に用いる主要河川以外の浸水想定図は 10cm 未満の浸水範囲を除外しているものを使用）【RISKMAP_ALL.CSV】、浸水深 50cm 以上の範囲【RISKMAP_Deeper0.5m.CSV】、浸水深 3m 以上の範囲【RISKMAP_Deeper3.0m.CSV】の 3 種類を保存することとする。
水害リスクマップについて、確率規模別の浸水範囲を合成後、何らかの修正を行っている場合は、その修正が反映されたデータ（水害リスクマップを作成したデータ）とすること。
メッシュサイズは、浸水深と同じく、原則として 5m メッシュとする。

図:4



図:5

2.2 [フォルダ作成]

フォルダ作成の概要を次に示します。

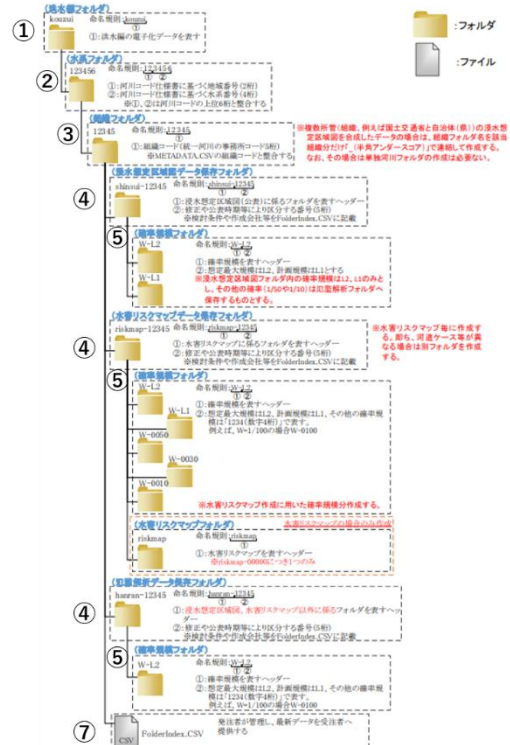
(1) フォルダ作成の概要

①	出力先パス	[洪水編フォルダ]の出力先のパスを設定します。
②	水系	[水系フォルダ]の名前を設定します。※地域番号 2 桁+水系番号 4 桁
③	組織	[組織フォルダ]の名前を設定します。 ※組織コード 5 桁 複数所管の場合は"_"で連結
④	データ保存 フォルダ名	[保存フォルダ名]を設定します。 ※(shinsui riskmap hanran)-区分番号
⑤	計画規模	計画規模(確率規模)を設定します。 ※(W-L1 W-L2 W-010 W-030 W-050 W-100 W-150 W-200)
⑥	河川コード	[河川フォルダ]を設定します。 ※(地域番号 2 桁+水系番号 4 桁+河川番号 4 桁 merge sewer-地域番号 2 桁+水系番号 4 桁)
⑦	概要等	FolderIndex.CSV の内容を設定します。
⑧	作成	フォルダを作成します。

(2) 電子化ガイドラインとの比較図



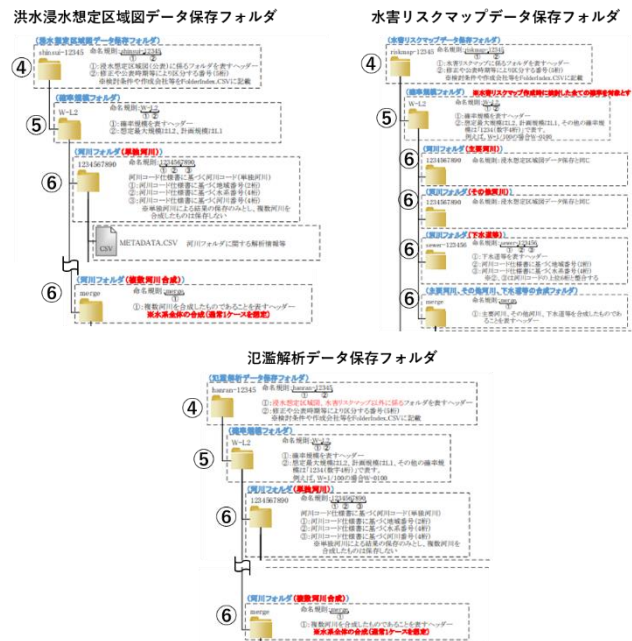
左: UpgradeToGL4



右: 電子化ガイドライン



左: UpgradeToGL4

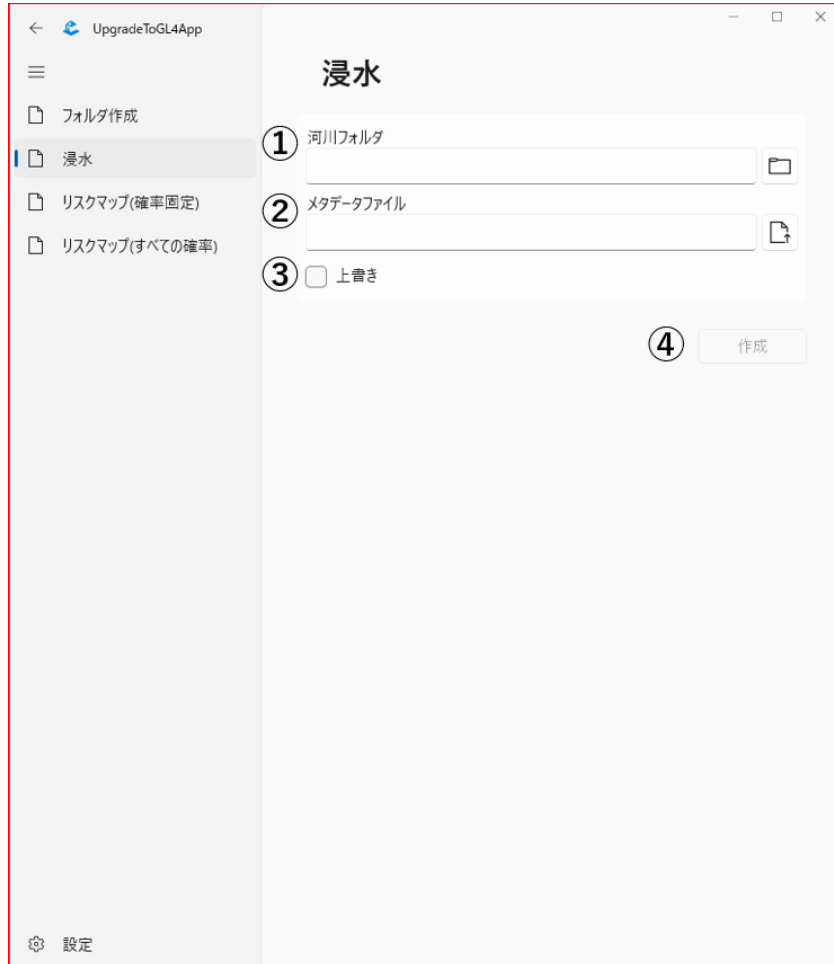


右: 電子化ガイドライン

2.3 [浸水]

2.3.1 [浸水]の概要

[浸水]の概要を以下に示します。

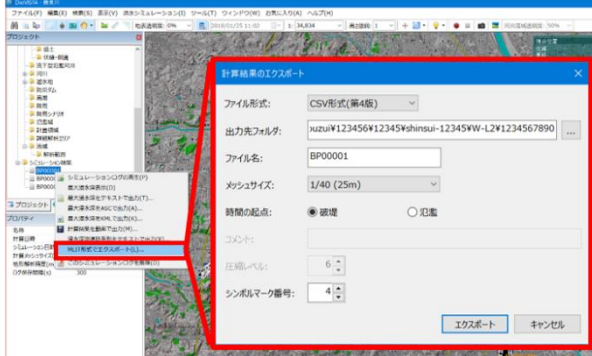


①	河川フォルダ	[河川フォルダ]のパスを設定します。
②	メタデータファイル	テンプレートで使用する[METADATA.CSV]のパスを設定します。 (任意)
③	上書き	上書きを有効/無効にします。
④	作成	KENSAKU/WL_STATION.CSV OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV※ OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV※ METADATA.CSV を作成します。※riskmap,hanran の場合は作成しません。

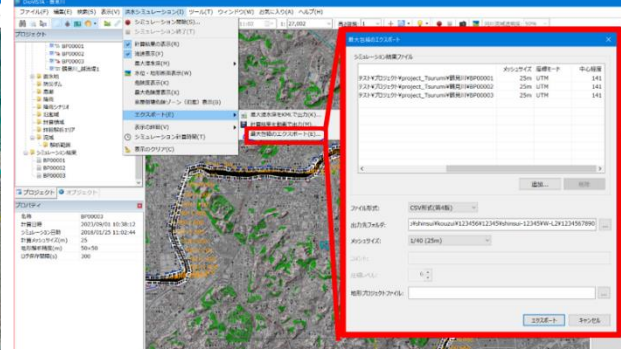
2.3.2 [浸水]の実行手順

(1) 事前準備:計算結果を MLIT CSV(第 4 版)形式でエクスポート

破堤点毎の結果をMLIT CSV形式（第4版）でエクスポート



最大包絡のMLIT CSV形式（第4版）でエクスポート



(1)-2 エクスポートした結果を 2.2[フォルダ作成]により作成した [河川フォルダ]内に配置します

配置例: kouzui > 123456 > 12345 > shinsui-12345 > W-L2 > 1234567890

名前	更新日時	種類
BP00000	2023/09/10 10:44	ファイル フォルダ
BP00001	2023/09/10 10:45	ファイル フォルダ
BP00002	2023/09/10 10:45	ファイル フォルダ
BP00003	2023/09/10 10:45	ファイル フォルダ
BP00004	2023/09/12 10:49	ファイル フォルダ
BP00005	2023/09/12 10:49	ファイル フォルダ
DZONE	2023/09/10 10:58	ファイル フォルダ
KENSAKU	2023/09/12 10:51	ファイル フォルダ
MAXALL	2023/09/10 10:57	ファイル フォルダ

❗ MLIT CSV 形式(第 4 版)のエクスポートについて

計算結果を MLIT CSV 形式(第 4 版)でエクスポートする処理について、
 コマンドプロンプトや Powershell などから実行することができます。
 実行方法の詳細については、[バッチ処理/ 概要 \(hitachi-power-solutions.com\)](https://hitachi-power-solutions.com)
 をご覧ください。

例 1.計算結果を MLIT CSV 形式(第 4 版)でエクスポート

```
&$conv csv -d 40 -s $d -G -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\shinsui-12345\W-L2\1234567890 BP00001
ADATA.CSV: ファイルがオープンできません。
SAIJI\W1_STATION.CSV: ファイルがオープンできません。
&$conv csv -d 40 -s $d -G -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\shinsui-12345\W-L2\1234567890 BP00002
ADATA.CSV: ファイルがオープンできません。
SAIJI\W1_STATION.CSV: ファイルがオープンできません。
&$conv csv -d 40 -s $d -G -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\shinsui-12345\W-L2\1234567890 BP00003
```

例 2.包絡図を MLIT CSV 形式(第 4 版)でエクスポート

```
&$conv max2csv -d 40 -s $d -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\shinsui-12345\W-L2\1234567890 BP00001 BP00002 BP00003
```

(2) [浸水]より必要情報を入力します

UpgradeToGL4App

浸水

①河川フォルダのパスを入力

河川フォルダ
C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\shinsui-12345\W-L2\1234567890

メタデータファイル ②メタデータファイルのパスを入力 (任意)
※ここはオプションです [テンプレートで使用するMETADATA.CSVのパスを入力] 規定値:指定なし

上書き ③上書きする場合はチェック

④作成をクリック

設定



①河川フォルダのパスの入力例

C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\shinsui-12345\W-L2\1234567890

②メタデータファイルのパスの入力例

※テンプレートで使用する METADATA.CSV がデスクトップにある場合

C:\Users\SubAdmin\Desktop\METADATA.CSV

③上書き

有効の場合

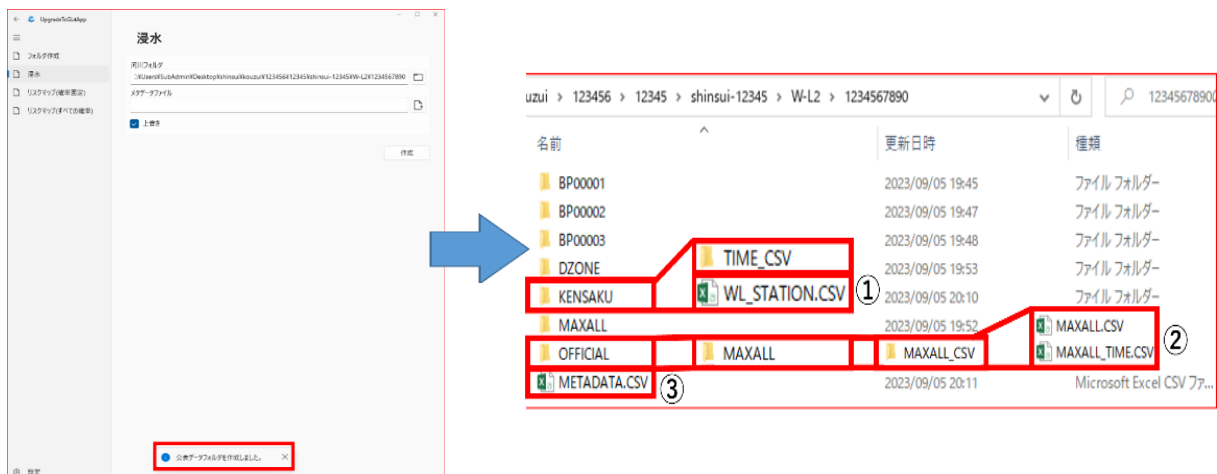


無効の場合



④作成ボタンをクリックします

(3) 公表データフォルダを作成します



- ① KENSAKU/WL_STATION.CSV
- ② OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV※
- ② OFFICIAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV※
- ③ METADATA.CSV が作成されます。※riskmap,hanran の場合は除く



処理内容について

- WL_STATION.CSV

```
破堤点No,水位観測所名,河川名,位置,管理事務所番号,観測所番号,破堤時刻
BP00001,,,,,,20150701
BP00002,,,,,,20150701
BP00003,,,,,,20150701
```

“破堤点 No”: BP のフォルダ名を取得しています

“水位観測所名”, “河川名”, “位置”, “管理事務所番号”, “観測所番号”: "" 空文字

“破堤時刻”: “201507010000” (固定)としています

- OFFICIAL フォルダ

MAXALL フォルダをコピーしています

- METADATA.CSV

```
区分,項目,入力
ファイル識別子,ファイル識別子,
識別情報,西側境界経度,139.58593750
識別情報,東側境界経度,139.71518750
識別情報,南側境界緯度,35.48366667
識別情報,北側境界緯度,35.54866667
フォルダ説明個数,フォルダ説明個数,4
フォルダ説明,BP00000,破堤なし(溢水のみ)
フォルダ説明,BP00001,12.8km右岸破堤
フォルダ説明,BP00002,9.0011km左岸破堤
フォルダ説明,BP00003,5.8km左岸破堤
```

“識別情報”: BP*_*.CSV の “(東|西|南|北)境界(経度|緯度)” を取得しています

“フォルダ説明個数”: フォルダ説明” の数を取得しています

“フォルダ説明”: BREAK_POINT.CSV から取得しています

上記以外の項目:

- 指定されたらそこから該当する内容をコピーします
- 指定されなければ "" 空文字にします

2.4 [リスクマップ(確率固定)]

2.4.1 [リスクマップ(確率固定)]の概要

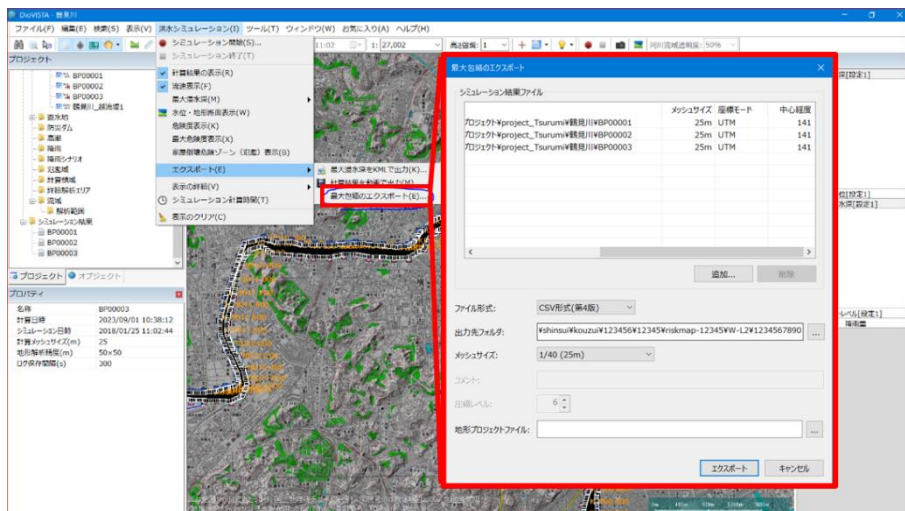
[リスクマップ(確率固定)]の概要を以下に示します。



①	確率規模フォルダ	[確率規模フォルダ]のパスを設定します。
②	主要河川	主要河川を設定します。
③	上書き	上書きを有効/無効にします。
④	作成	merge/(All Main Others Sewer Sub)/[OFFICAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV merge/(All Main Others Sewer Sub)/[OFFICAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV を作成します。

2.4.2 [リスクマップ(確率固定)]の実行手順

(1) 事前準備:計算結果を MLIT CSV 形式(第 4 版)でエクスポート



(1)-2 エクスポートした結果を 2.2[フォルダ作成]により作成した [河川フォルダ]内に配置します

配置例: kouzui > 123456 > 12345 > riskmap-12345 > W-L2 > 1234567890

MAXALL

kouzui > 123456 > 12345 > riskmap-12345 > W-L2 > sewer-123456

MAXALL

kouzui > 123456 > 12345 > riskmap-12345 > W-L2 > 1234561111

MAXALL

❗ MLIT CSV 形式(第 4 版)のエクスポートについて

計算結果を MLIT CSV 形式(第 4 版)でエクスポートする処理について、
コマンドプロンプトや Powershell などから実行することができます。

実行方法の詳細については、[バッチ処理/ 概要 \(hitachi-power-solutions.com\)](http://hitachi-power-solutions.com)
をご覧ください。

例 1.計算結果を MLIT CSV 形式(第 4 版)でエクスポート

```
&&conv csv -d 40 -s $d -G -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\riskmap-12345\W-L2\1234567890 BP00001
```

ADATA.CSV: ファイルがオープンできません。

SAWII\W1_STATTON.CSV: ファイルがオープンできません。

```
&&conv csv -d 40 -s $d -G -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\riskmap-12345\W-L2\1234567890 BP00002
```

ADATA.CSV: ファイルがオープンできません。

SAWII\W1_STATTON.CSV: ファイルがオープンできません。

```
&&conv csv -d 40 -s $d -G -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\riskmap-12345\W-L2\1234567890 BP00003
```

例 2.包絡図を MLIT CSV 形式(第 4 版)でエクスポート

```
&&conv max2csv -d 40 -s $d -R -g 4 -o C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\riskmap-12345\W-L2\1234567890 BP00001 BP00002 BP00003
```

(2) [リスクマップ(確率固定)]より必要情報を入力します

UpgradeToGL4App

リスクマップ(確率固定)

① 確率規模フォルダのパスを入力

確率規模フォルダ

C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\riskmap-12345\W-L2

主要河川

② 主要河川を選択

1234567890

③ 上書き 上書きする場合はチェック

④ 作成をクリック 作成

設定



① 確率規模フォルダのパスの入力例

C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\riskmap-12345\W-L2

② 主要河川を選択例

1234567890

③ 上書き

有効の場合

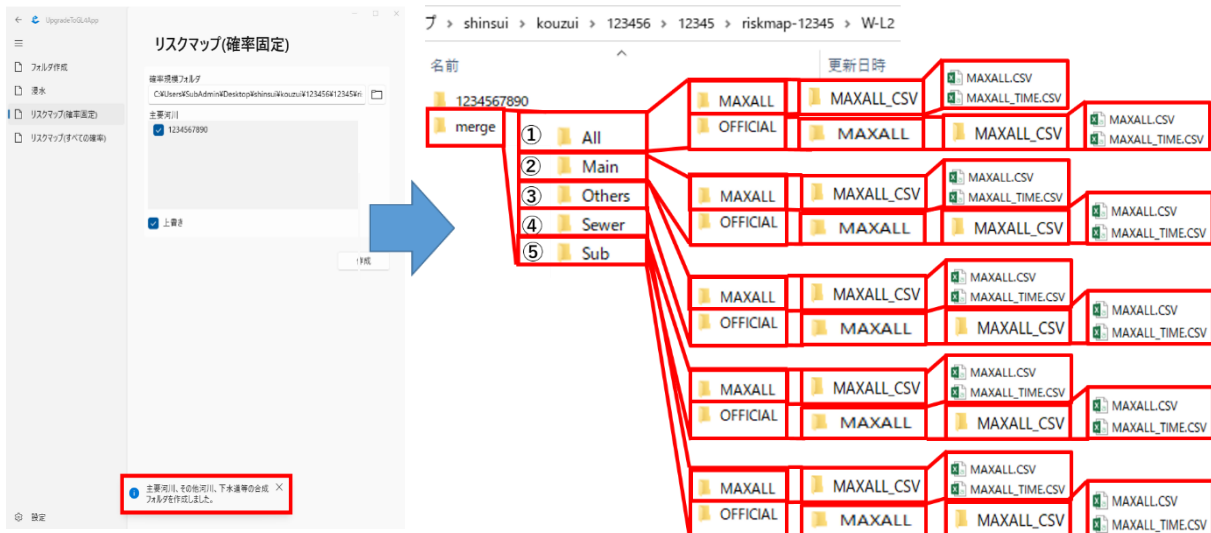
上書き

無効の場合

上書き

④ 作成ボタンをクリックします

(3) 主要河川、その他河川、下水道等の合成フォルダを作成します



merge/(All|Main|Others|Sewer|Sub)/[OFFICIAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV
 merge/(All|Main|Others|Sewer|Sub)/[OFFICIAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV
 CSV が作成されます。



処理内容について

merge/

(①All|②Main|③Others|④Sewer|⑤Sub)/[OFFICIAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV

は、*/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV から作成します

merge/

(①All|②Main|③Others|④Sewer|⑤Sub)/[OFFICIAL/]MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV

は、*/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL_TIME.CSV から作成します

- ①All: [主要河川]、[その他河川] および [下水道等] の最大包絡
- ②Main: [主要河川] の最大包絡
- ③Others: [その他河川] と [下水道等] の最大包絡
- ④Sewer: [下水道等] の最大包絡
- ⑤Sub: [その他河川] の最大包絡

[主要河川]: 河川フォルダ (主要河川)

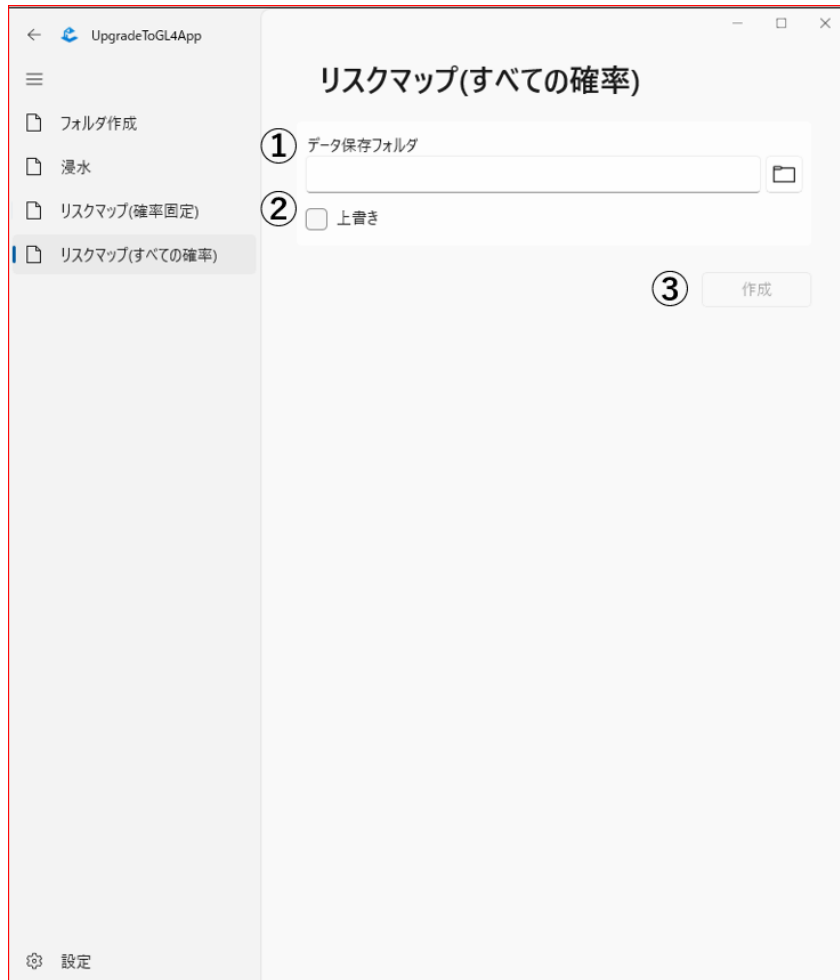
[その他河川]: 河川フォルダ (その他河川) の 10cm 以上のもの

[下水道等]: 河川フォルダ (下水道等) の 10cm 以上のもの

2.5 [リスクマップ(すべての確率)]

2.5.1 [リスクマップ(すべての確率)]の概要

「リスクマップ(すべての確率)」の概要を以下に示します。



①	データ保存フォルダ	[データ保存フォルダ]のパスを設定します。
②	上書き	上書きを有効/無効にします。
③	作成	riskmap/(All Main Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_ALL.CSV riskmap/(All Main Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deep0.5m.CSV riskmap/(All Main Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deep3.0m.CSV を作成します。

2.5.2 [リスクマップ(すべての確率)]の実行手順

(1) [リスクマップ(すべての確率)]より必要情報を入力します

UpgradeToGL4App

リスクマップ(すべての確率)

データ保存フォルダ ①データ保存フォルダのパスを入力
C:\Users\SubAdmin\Desktop\shinsui\kouzui\123456\12345\riskmap-12345

上書き ②上書きする場合はチェック

③作成をクリック 作成

設定



①データ保存フォルダのパスの入力例

**C:¥Users¥SubAdmin¥Desktop¥shinsui¥kouzui¥123456¥12345¥
riskmap-12345**

②上書き

有効の場合

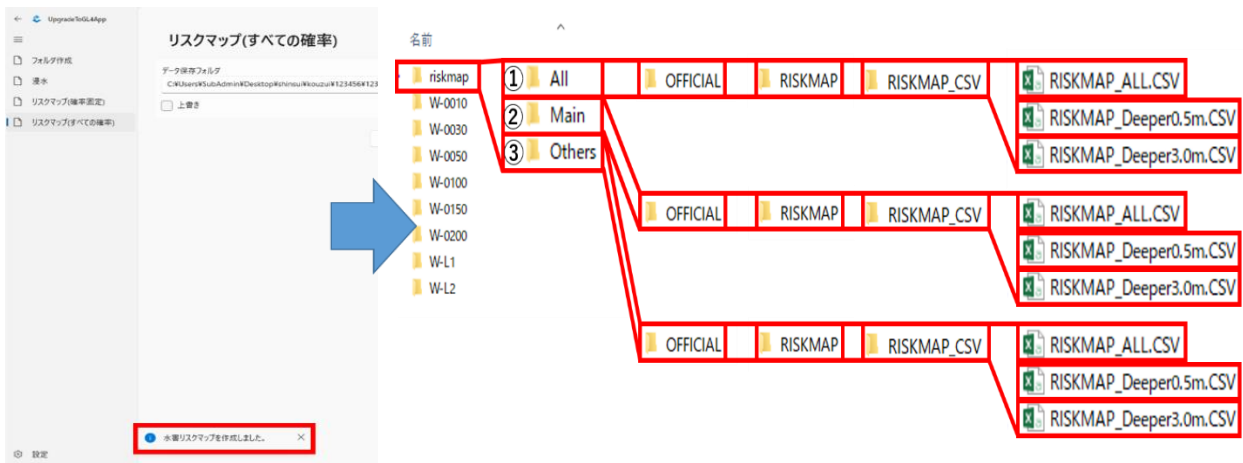


無効の場合



③作成ボタンをクリックします

(2) 水害リスクマップを作成します



riskmap/(All|Main|Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_ALL.CSV

riskmap/(All|Main|Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deeper0.5m.CSV

riskmap/(All|Main|Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV/RISKMAP_Deeper3.0m.CSV

が作成されます。



処理内容について

(①All|②Main|③Others)/OFFICAL/RISKMAP/RISKMAP_CSV の
RISKMAP_ALL.CSV、RISKMAP_Deeper0.5m.CSV、RISKMAP_Deeper3.0m.CSV は
W-*/merge/(All|Main|Others)/OFFICAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV から作成します

①All

W-*/merge/All/OFFICAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV をもとに作成します

②Main

W-*/merge/Main/OFFICAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV をもとに作成します

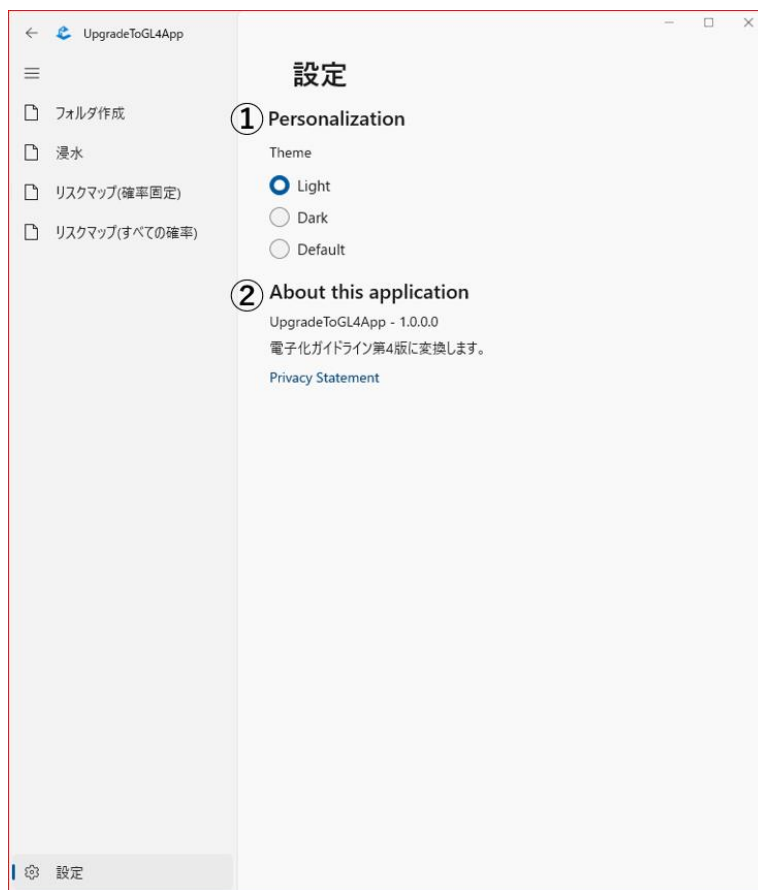
③Others

W-*/merge/Others/OFFICAL/MAXALL/MAXALL_CSV/MAXALL.CSV をもとに作成します

2.6 設定

2.6.1 [設定]の概要

[設定]の概要を以下に示します。

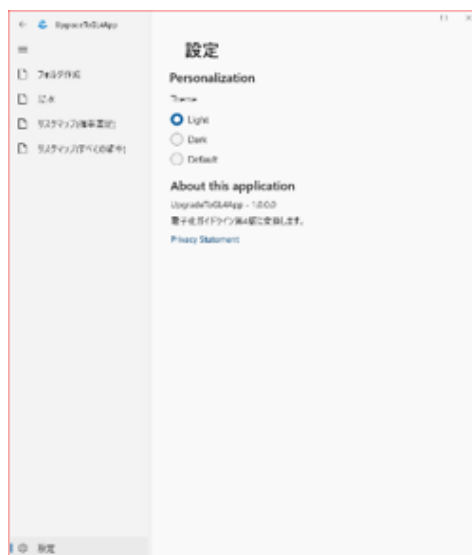


①	Personalization	ツールの表示設定を行うことができます。
②	About this application	バージョン情報などが表示されます。

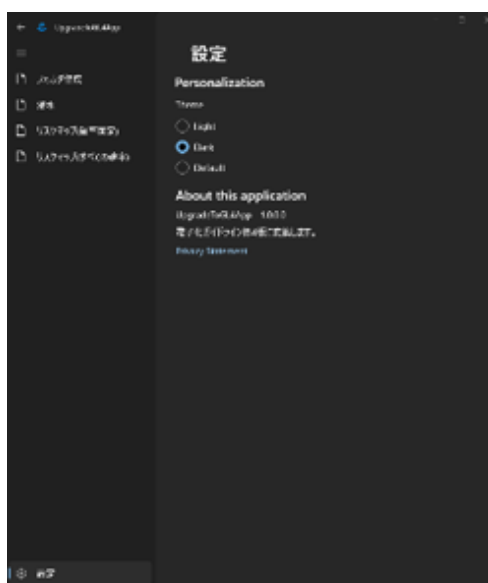
(1) Personalization の設定例

Theme

Light . . . 画面が(白)になります。



Dark . . . 画面が(黒)になります。



Default . . . 既定色(Light)(Dark)が設定されます。